

指導資料  鹿児島県総合教育センター 平成29年10月発行		国 語 第140号	
対象 校種		小学校 特別支援学校	義務教育学校

「活用する力」を高める小学校国語科の授業改善 —小学校第2学年 教材「たんぽぽのちえ」の授業づくりを通して—

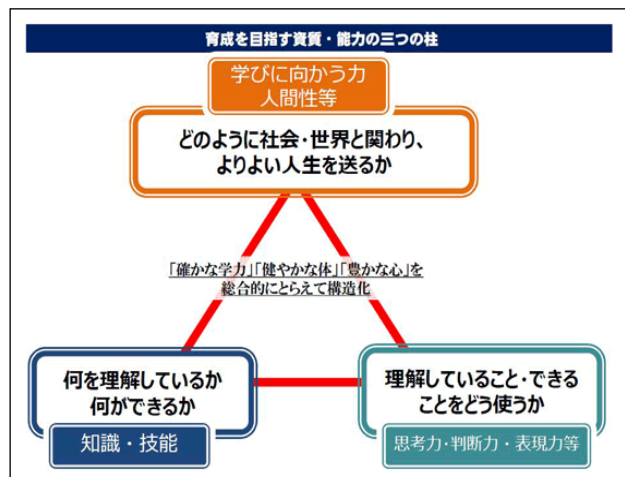
新学習指導要領では、「何ができるようになるか」を意識した指導が求められている。国語科でも基礎的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力（いわゆる「活用する力」）の育成が求められている。そのためには、実生活の様々な場面における言語活動を通して国語の能力を身に付ける授業改善を一層推進する必要がある。本稿ではその具体を提案したい。

1 なぜ「活用する力」なのか

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申において育成を目指す資質・能力が資料 1 のように整理された。これを受け、平成 29 年 3 月に告示された新学習指導要領では、「何ができるようになるか」、そのために「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を意識しながら教育内容や指導方法を改善していくことが明確化された。

平成 20 年告示の学習指導要領における国語科の改善の基本方針には「実生活で生きてはたらし、各教科の学習の基本ともなる国語の能力

【資料 1】育成を目指す資質・能力の三つの柱



を身に付けること」が示された。今回の学習指導要領改訂でも児童が学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自分の能力を引き出し、学習したことを活用して主体的に課題解決できる資質・能力の育成に向けた教育課程の改善が重視されており、今後一層「活用する力」の育成を意識した国語科の授業改善が必要であると考えられる。

新学習指導要領国語科の目標にも明記されたが、国語科は、言語活動を通して資質・能力（国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力）を育成する教科である。国語科の学習活動は、言葉による記録、要約、論述などの具体的な言語活動を通して行われることになる。したがって、国語科の学習で育成すべき資質・能力が発揮され、課題解決が実現できる言語活動をいかに充実させていくかが重要である。

また、「活用する力」を育成する国語科の授業改善においては、資質・能力の育成に応じた言語活動の充実を図ることが重要なポイントであると考えられる。

2 言語活動の更なる充実

【資料2】学習指導要領における国語科の目標と内容

○こういう力を付けるために (小学校第1・2学年「読むこと」の目標)	
目 標	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる
○具体的にこういう指導事項を (小学校第1・2学年「読むこと」の内容①)	
指導事項	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
○このような言語活動を通して身に付けさせる (小学校第1・2学年「読むこと」の内容②)	
言語活動例	事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。

国語科は実生活や各教科等の学習につながる具体的な言語活動を通して指導事項を身に付ける教科である（資料2）。

国語科における言語活動の充実とは、言語能力（身に付けたい力）の育成にほかならない。言語活動を充実させることにより、課題解決的な学習過程を質的に改善することが重要なことである。①単元を通して育成すべき言語能力を明確にすること、②言語能力の育成に適した言語活動を選択すること、③言語活動を通して言語能力を適切に評価することが授業改善の重要なポイントである。

さらに、「活用する力」を育成する視点から国語科で育成する言語能力が各教科等の言語活動（対話や記録、説明、報告、要約など）とどのようにつながっていくのかという各教科等の学習に役立つ視点をもち、指導計画を工夫することも新たな視点に加えたい。

以上の「言語活動の充実」の視点に基づく単元構成及び評価の工夫について、第2学年「C読むこと」の説明的文章の単元において、具体的に示す。

3 言語活動の充実を図る単元づくりの具体

小学校第2学年「たんぽぽのちえ」の単元モデル

【身に付けたい力】

時間の順序や理由を表す言葉に着目し、様子とその理由を考えながら、説明的な文章を読むこと。
〔「C読むこと」 (1)指導事項イ〕

①

第一次（課題をつかむ・見通す）



- 調べた植物の知恵をどんなふうに説明したらいいかな。
- どんな言葉を使って説明したらいいんだろう。
- 「たんぽぽのちえ」では、どんなちえをどのように説明しているんだろう。

②

第二次（課題解決のための読み）

- 教科書教材「たんぽぽのちえ」を読む。
 - ・ 「たんぽぽのちえ」を読み、書かれた内容や説明の仕方について考える。
 - ・ 時間的な順序を考えながら
 - ・ 「ちえ」と「わけ」の因果関係を捉える。
 - ・ 理由を述べる言葉（文末表現）を知る。

活用

習得

- 「たんぽぽのちえ」で学習した説明の仕方を生かして、自分で調べた「植物のちえ」を説明する。
 - ・ 時間的な順序を考えながら
 - ・ 「ちえ」と「わけ」の因果関係を考えた文のまとめ
 - ・ 理由を述べる言葉（文末表現）を使って記述する。

第三次（学習の振り返り・学習の価値付け）

学習過程を振り返らせ、できるようにしたことを自覚させることにより、学習の価値付けを図る。

③

言語活動を通して児童の学習状況を的確に評価し、適切に指導する。（指導と評価の一体化）

【資料4】第三次での児童の言語活動

4 言語活動を通しての評価の実際

先述した言語活動を位置付けた課題解決的な学習過程においては、教師自身が単元を通してどのような言語能力が身に付いたかを的確に評価することが重要なポイントになる。第三次での言語活動を通して児童の言語能力をどのように評価するのかを具体化しておく必要がある。児童が学習成果や自己の成長を実感するためには、具体的な評価の目安が必要である。

そこで、目標の達成の度合いを判断するための目安として「判断の要素」を設定するとともに、それを具体化した尺度として「判断基準」を設定することを提案したい（「指導資料 国語 第137号」参照）。「判断基準」を設定することにより、的確な評価と適切な指導を可能にし、指導と評価の一体化を図ることができる。「判断の要素」及び「判断基準」の設定例を資料3に示す。

【資料3】 「判断基準」設定の具体例

評価規準（「読む能力」）	
○ 読む能力 「たんぼのちえ」について、時間的な順序を表す言葉、様子、理由を関係付けながら内容の大体を読み、自分が選んだ「植物のちえ」について時間的な順序、様子、理由を関係付けながら説明している。 (読むこと イ)	
思考、判断に基づく表現内容（評価の対象）	
○ 自分で選んだ「植物のちえ」を説明する「○○のちえブック」（ワークシート）	
判断の要素	
ア 時間的な順序 (時間的な順序を表す言葉)	
イ 様子と理由の因果関係 (様子や理由を表す言葉)	
判断基準B（おおむね満足できる状況）	
ア 時間を表す言葉を見付け、様子（～のです。）と理由（～からです。）を区別しながら、「たんぼのちえ」の内容の大体を読んでいる。 時間を表す言葉を「ちえブック」にまとめている。	
イ 「問い」と「答え」の関連を手掛かりにしながら「たんぼのちえ」の内容の大体を読んでいる。 植物が、ちえを働かせる様子と、その理由を「ちえブック」にまとめている。	

トマトのちえブック

理由

トマトの黄色い花が散ったあとに、青い実がつけます。それから七十日くらいたつと、青い実はだんだんと赤くなつていきます。赤くなると、みはとうふんをいばいにためて、だんだんとあまくなつていきます。

様子

すると、赤いトマトのみを食べるためにとりたちがあつてきます。赤いみをたべたりは、とくはなれたころにふんをおとします。そのふんの中からトマトのたねがめを出し、あたらしいトマトがそだてていきます。

このように、トマトのみは、赤くなることでとくをよびよせ、じふんのなかまをふやしていくのです。

資料3の「判断基準」で児童の第三次での言語活動（資料4）を評価する。「黄色い花が散ったあとに」、「すると」のように時間的な順序を表す記述が見られ、時間的な順序を意識した情報の整理ができていることから、判断基準Bアに到達している状況であると評価できる。また、「ちえを働かせる様子」と「その理由」の因果関係を意識した内容の記述になっており、「・・・のです。」という理由を表す文末表現も見られる。このような状況から判断基準Bイに到達していると評価できる。

もし、いずれかの基準に到達していない状況が見られた場合は、具体的な補充指導を行い、確実に設定した基準に到達できるようにすることが重要である。

実現できた言語活動を通して、児童に「この単元を通してできるようになったこと」、「学習をどんな場面で生かせるか」などの観点で学習を振り返らせ、学習の価値付けを図りたい。自らが価値付けできた学習内容こそ、実生活で活用できる言語能力となる。

5 身に付けたい力を明確にした教材研究

これまで、新学習指導要領に示された「何ができるようになるか。」という学力観に基づく「活用する力」の育成を意識した授業改善のポイント（単元構成の工夫や評価の工夫）について述べてきた。

【資料5】新小学校学習指導要領の国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

(※強調は、作成者による。)

資料5に示すように、新たな学習指導要領においても言語活動を通して言語能力を育成するという考えは一層明確にされた。

言語活動を通して指導事項を学ぶという単元構成を実現するためには、単元に設定する言語活動の実現が、身に付けさせたい力とどのようにつながるのかを明らかにする必要がある。身に付けさせたい力（指導事項）を踏まえた教材研究を進めることで、教科書教材で取り扱うべき叙述やどのような言語活動を通してどのようなことを学ばせるのが明らかになってくる。単元に設定した言語活動を実現するために活用する〔知識・技能〕はどのようなものか、それを活用してどのような視点で〔思考・判断・表現〕させるかということが、授業を構成する際の重要なポイントになる。

具体的に、小学校第2学年の説明的文章教材「たんぽぽのちえ」の教材分析の手順や観点及び教材分析の実際を、以下のとおり示す。

○ 教材研究の手順

ステップ1 指導事項の確認

イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
小学校第1学年及び第2学年「C読むこと」
(説明的な文章の解釈に関する事項)

ステップ2 身に付けさせたい力の具体化・重点化

〔知識・技能〕

A 時間の経過を表す言葉

B 主語と述語

C 理由を表す文末表現

〔思考・判断・表現〕

D 時間の順序に着目した内容の読み取り

E 「様子」と「理由」の因果関係の把握
(段落の役割)



AからEを観点に教材文を分析していくことになります。

ステップ3 教材分析の具体（教材分析表）

【教材分析表例】「たんぽぽのちえ」（第2学年）

構成	一 序論	二 本論	三 結論
叙述（本文）	① 春になると、たんぽぽの黄色いきれいな花がさきます。 ② 「三日たつと、その花はしぼんで、だんだんくろっぽい色にかわっていきます。そして、たんぽぽの根のじくは、ぐつたりとじめんにたおれてしまいます。」 ③ そうして、たんぽぽの根のじくは、ぐつたりとじめんにたおれてしまいます。 ④ けれども、たんぽぽは、かれてしまったわけではありません。花とじくをはずかずに休ませて、たねに、たくさんのえいようをおくっているのです。 ⑤ やがて、花はすっかりかれて、そのあとに、白いわが毛ができてきます。 ⑥ このわた毛の一つは、ひろがると、ちようどうつかさんようになります。たんぽぽは、このわた毛についているたねを、ふわふわとばすのです。 ⑦ このころになると、それまでたおれていた花のじくが、またおき上がり、そして、せのびをするように、ぐんぐんのびて	⑧ 春になると、たんぽぽの黄色いきれいな花がさきます。 ⑨ 「三日たつと、その花はしぼんで、だんだんくろっぽい色にかわっていきます。そして、たんぽぽの根のじくは、ぐつたりとじめんにたおれてしまいます。」 ⑩ そうして、たんぽぽの根のじくは、ぐつたりとじめんにたおれてしまいます。 ⑪ けれども、たんぽぽは、かれてしまったわけではありません。花とじくをはずかずに休ませて、たねに、たくさんのえいようをおくっているのです。 ⑫ やがて、花はすっかりかれて、そのあとに、白いわが毛ができてきます。 ⑬ このわた毛の一つは、ひろがると、ちようどうつかさんようになります。たんぽぽは、このわた毛についているたねを、ふわふわとばすのです。 ⑭ このころになると、それまでたおれていた花のじくが、またおき上がり、そして、せのびをするように、ぐんぐんのびて	⑮ 春になると、たんぽぽの黄色いきれいな花がさきます。 ⑯ 「三日たつと、その花はしぼんで、だんだんくろっぽい色にかわっていきます。そして、たんぽぽの根のじくは、ぐつたりとじめんにたおれてしまいます。」 ⑰ そうして、たんぽぽの根のじくは、ぐつたりとじめんにたおれてしまいます。 ⑱ けれども、たんぽぽは、かれてしまったわけではありません。花とじくをはずかずに休ませて、たねに、たくさんのえいようをおくっているのです。 ⑲ やがて、花はすっかりかれて、そのあとに、白いわが毛ができてきます。 ⑳ このわた毛の一つは、ひろがると、ちようどうつかさんようになります。たんぽぽは、このわた毛についているたねを、ふわふわとばすのです。 ㉑ このころになると、それまでたおれていた花のじくが、またおき上がり、そして、せのびをするように、ぐんぐんのびて
文・段落の役割	話題提示 問題提起 起文 結文	問題提起 起文 結文	問題提起 起文 結文
表現上の特徴など	① 時間を表す言葉 ② 時間の経過を表す ③ その黄色いきれいな ④ 主語（花のじくは） ⑤ 述語（たおれてしまいます） ⑥ 理由を表す ⑦ 文末表現（逆接） ⑧ 「のです」理由を表す文末表現 ⑨ 「のです」理由を表す文末表現 ⑩ 理由を表す文末表現 ⑪ 理由を表す文末表現 ⑫ 理由を表す文末表現 ⑬ 理由を表す文末表現 ⑭ 理由を表す文末表現 ⑮ 理由を表す文末表現 ⑯ 理由を表す文末表現 ⑰ 理由を表す文末表現 ⑱ 理由を表す文末表現 ⑲ 理由を表す文末表現 ⑳ 理由を表す文末表現 ㉑ 理由を表す文末表現	① 時間を表す言葉 ② 時間の経過を表す ③ その黄色いきれいな ④ 主語（花のじくは） ⑤ 述語（たおれてしまいます） ⑥ 理由を表す ⑦ 文末表現（逆接） ⑧ 「のです」理由を表す文末表現 ⑨ 「のです」理由を表す文末表現 ⑩ 理由を表す文末表現 ⑪ 理由を表す文末表現 ⑫ 理由を表す文末表現 ⑬ 理由を表す文末表現 ⑭ 理由を表す文末表現 ⑮ 理由を表す文末表現 ⑯ 理由を表す文末表現 ⑰ 理由を表す文末表現 ⑱ 理由を表す文末表現 ⑲ 理由を表す文末表現 ⑳ 理由を表す文末表現 ㉑ 理由を表す文末表現	① 時間を表す言葉 ② 時間の経過を表す ③ その黄色いきれいな ④ 主語（花のじくは） ⑤ 述語（たおれてしまいます） ⑥ 理由を表す ⑦ 文末表現（逆接） ⑧ 「のです」理由を表す文末表現 ⑨ 「のです」理由を表す文末表現 ⑩ 理由を表す文末表現 ⑪ 理由を表す文末表現 ⑫ 理由を表す文末表現 ⑬ 理由を表す文末表現 ⑭ 理由を表す文末表現 ⑮ 理由を表す文末表現 ⑯ 理由を表す文末表現 ⑰ 理由を表す文末表現 ⑱ 理由を表す文末表現 ⑲ 理由を表す文末表現 ⑳ 理由を表す文末表現 ㉑ 理由を表す文末表現

言語活動の充実を図り、生きて働く言語能力

の育成を目指す授業改善の推進を期待したい。

—引用・参考文献—

- 鹿児島県総合教育センター 『指導資料 1885 号（国語第 137 号）』平成 28 年 10 月
- 鹿児島県総合教育センター 『短期研修講座資料』平成 29 年度

（教科教育研修課 宮脇 一郎）